

2 学校の情報化

(1) 実践の共有化

本校では情報教育便りを発行し、各学年での実践や情報機器の活用のヒント、情報教育に関する最新情報などを紹介し、職員の意識や技能の向上を図っている。この情報教育便りは、C P 加配教員がT・Tで授業を実施する際に話合われた内容や実践した内容について詳細にまとめたものであり、授業が実施されるたびに発行され、全職員で共通理解が図られているところが特徴であり、記録の累積・保管としてもすばらしい実績であると感心することであった。

(2) 教育活動の公開

本校では、学校内での児童の様子を知らせるために学校便り、P T A新聞の発行、ホームページの公開を行っている。学校便りは月に1回、P T A新聞は年間2回発行している。また、学校便り、P T A新聞はホームページにも掲載されており、誰でも見るできるようになっている。ホームページは、本年度リニューアルされ、行事の様子、委員会クラブ、情報教育についての実践紹介を行っている。特に行事の紹介等には保護者からも多数のメールが寄せられ、このホームページに対する保護者の期待がうかがえる。また、ホームページに関しては校内に規約を設け個人情報の保護に努めているとのことである。(アドレス <http://www.synapse.ne.jp/~nisiarasyou/>)
家庭や地域における情報モラルの育成からもすばらしい実践がなされている。

3 取材を通して

開かれた学校を目指して、鹿屋市立西原小学校では情報活用能力の育成と学校の情報化を中心に全職員で取り組んでいる。

情報活用能力の育成については、各教科、特別活動、総合的な学習の時間（きらめきタイム）の中で行われており、子どもたちが情報の集め方、調べ方、まとめ方、報告や発表・討論の仕方等の学び方やものの考え方を身に付けることを意識して実践が行われている。

このような実践により、子どもたちの中に情報を収集したり発信したりすることへの興味・関心が高まり、情報活用能力が確実に定着していることを感じた。

また、これらの能力を高めるためにほとんどの職員がコンピュータを揃え、職員研修を繰り返しながら学校教育目標実現のために努力されている姿が印象的であった。

今後子どもたちが好奇心をもって情報を収集し発信する活動を、学校生活の中で数多く経験させながらこれからの情報化社会をたくましく生きる西原の子どもを育てていただきたいと思う。